

エゾマツ



No. 23 1992.10.10

北海道ボランティアレンジャー協議会



「巻頭言」

会長という重責を担って

北海道ボランティア・レンジャー
協議会 会長 大友 健

木漏れ陽に、ナナカマドの実が美しい紅色をつけるこのごろとなりました。自然の歩みは初秋に向かって、一步一步早さを増し始めてもおりますが、会員の皆様にはますますご健勝の日々を、有意義のうちにお過ごしのこととお察し申し上げます。

私、去る8月8日第7回の総会におきまして、会長という大役をお引き受けすることになりました。今までは、会の設立当時より副会長として、責務を果たして参りましたが、これからは、立場を変え会長という重責を背に、会員のみな様に支えられながら歩む訳で御座います。

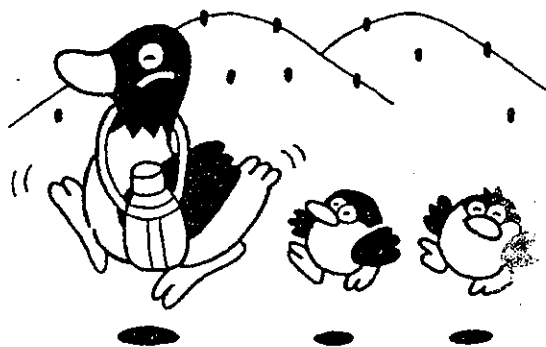
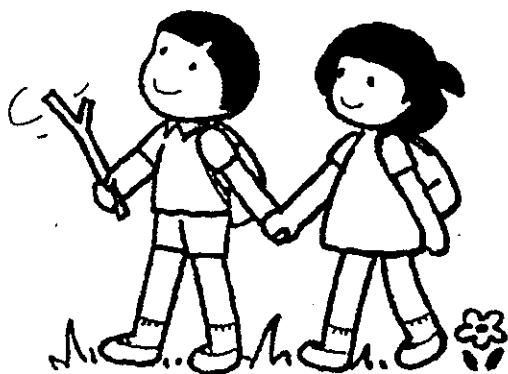
会則を今一度胸に、魅力ある組織作りに専念したく、決意を新たにしている所で御座います。皆様のご協力を従前通りいただきたく、よろしく願い申し上げます。

今や会員も120名をこえ、各地域に密着した活動を続けておりますが、自然志向という時の流れに、私共は自然を相手に何をなすべきかと、改めて考えるとき自然界の多様性に視野をより広く、より関連性を高めた視点で、深く分野を究めると言うスペシヤリティではなく、いかに自然のおもしろさをアピールするか、また自然の楽しさを伝えるポイントを理解できる、ホスピタリティであると思うのです。

ボランティア・レンジャーの役割は、「自然と人との橋渡し役」であり、価値のある今日の仕事でもあります。

自然に学び、自然を尊び、自然を愛し、自然に親しみ、美しい自然を子孫に残し伝えるためにも、活発な活動を展開致しましょう。

終わりに当たりまして、重ねてよろしくお願ひ申し上げます。



北海道ボランティア・レンジャー協議会 第7回定期総会の報告

日時 平成4年8月8日(土) 15時～17時

会場 かでる27(940室) 札幌市中央区北2条西7丁目

出席者 33名及び委任状提出者59名

総会次第

1. 開会の言葉 副会長 八戸 克己
2. 会長挨拶(代理) 副会長 大友 健
3. 来賓挨拶 小笠原 野幌森林公園管理部長
4. 議長選出 事務局に一任、ということで山口 慶彦氏を選出。
5. 議事

(1) 平成3年度事業報告

事務局から14項目の報告があり、その中で、実践セミナーの開催日時を早めに知らせて欲しい、との意見が出た。事務局は、これについて、会報にわかり次第速やかに、掲載している旨、答弁した。

(2) 平成3年度決算報告及び(3) 同監査報告 特に質疑なし

(4) 平成4年度事業計画

早目に行事予定を知らせて欲しい、という意見・要望が出された。
役員会が不活発だった事を反省し、より行動できる役員会にして欲しい、という意見が出された。

(5) 平成4年度事業予算

収入の部が、現在の会員数114名に若干の増を予定して、125名と見込んでいる。さらに、各種助成金等の制度が活用できないか、という意見が出された。

(6) 会則の一部改正について

オホーツク支部の結成に伴う会則の一部改正について、事務局から説明。
地方幹事の推薦については役員で選考して欲しい、という意見が出される。

(7) 支部組織結成促進及び連携について 事務局から口頭提案。

(8) 役員の改選について

事務局に一任、ということで、3名の選考委員を選出した。

(川端、中川、祐川選考委員は別室で選考) 新役員が決定、承認された。
他にアドバイザーを設け、地方幹事は、新役員が役員会で選考する。

(9) その他事項

協議会に相談役・顧問・参与等を置いてはどうか、という意見が出された。

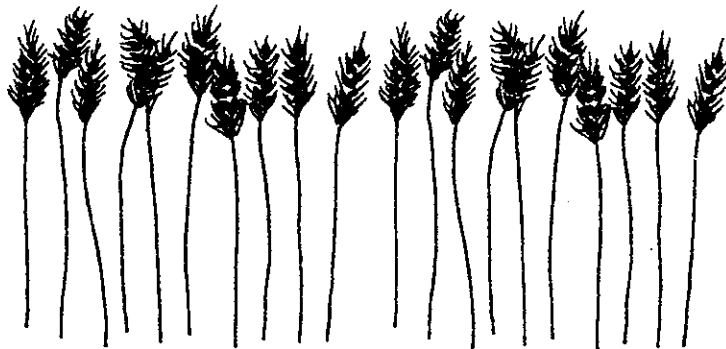
研修会の講師に会報に載せる原稿をお願いしたり、会報以外に「特集号」のような形で情報交換したり発表の機会が欲しい、という要望が出された。

また、114名の会員名簿の整理が済んでいないので、総務部は速やかに名簿を作成し、次回会報の送付に間に合わせて欲しい、という意見が出された。

閉会の言葉は17時5分。以上をもって、定期総会の報告といたします。

なお、新役員は別紙のとおりで、地方幹事は、8名を今のところ承諾のお願いをしていることをつけ加えます。

(総 務 部)



平成3年度事業報告

- 1、平成3年8月4日 夏の森林観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 2、" 8月24日 第6回協議会総会 (市職員会館)
- 3、" 9月8日 野幌自然観察の集い開催 (野幌森林公園)
- 4、" 10月13日 石狩支庁自然教室に協力 (道民の森)
- 5、" 10月17日 秋の森林観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 6、" 自11月14日 各月例森林観察会参加協力 (野幌森林公園)
" 至 2月13日
- 7、平成4年3月1日 冬の森林観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 8、" 4月9日 月例観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 9、" 5月10日 春の森林観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 10、" 6月7日 野幌自然観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 11、" 7月9日 月例観察会参加協力 (野幌森林公園)
- 12、" 3年10、4年1、4、7月会報「エゾマツ」発行
- 13、" 3年8、4年2、4、7月役員会開催 (市職員会館)
- 14、その他事業関連協力及び参加行事
 - イ、平成3年11月15～16、実践セミナー参加 (ウトナイ湖)
 - ロ、" 6～11月、林業総合技術セミナー参加 (林業試験場)
 - ハ、" 9月11日、自然保護関係知事懇談会参加 (道庁)
 - ニ、" 8、9、10月、レンジャー育成研修会の後援
(標茶、ニセコ、当別)
 - ホ、" 4年3月8日、クマゲラ調査協力参加 (野幌森林公園)
 - ヘ、" 年5月31日、厚別児童館バードウォッチング協力
(野幌森林公園)
 - ト、" 6、7、8月、レンジャー育成研修会の後援
(芽室、芦別、白老)

平成3年度 会計決算報告書

注) 期間は、平成3年8月1日より
平成4年7月31日までとする。

収入の部

項目	予算額	収入額	差額	備考
会費	270,000	342,000	72,000	3,000円×114名
繰越金	152,016	152,016	0	
雑収入	0	10,000	10,000	道より「志」
合計	422,016	A 504,016	82,000	

支出の部

項目	予算額	執行額	差額	備考
会議費	110,000	50,681	59,319	総会費、役員会費
通信費	130,000	△ 188,514	58,514	会報発送、切手類
研修費	40,000	△ 42,860	2,860	講師謝礼、観覧会
印刷費	50,000	40,016	9,984	会報印刷、コピー代
事務費	40,000	△ 45,479	5,479	封筒、用紙類
予備費	52,016	0	52,016	
				残高 = A - B
合計	422,016	B 387,550	54,466	504,016 - 387,550



∴ 残高 136,466円 を平成4年度への繰越金とする。

監査報告

監査の結果 領収書等確認のうえ上記収支に相違なし、残高については
預金通帳及び現金により確認した。

平成4年 8月 2日

監査員
監査員


 犬杉 三郎

 野月 肇雄

議案4

平成4年度事業計画

- 1、北海道ボランティア・レンジャー協議会第7回総会
(平成4年8月8日かでの27)
- 2、野幌森林公園四季の観察会協力参加
(平成4年8月9日、10月18日、)
(平成5年3月7日、4月)
- 3、「野幌自然観察の集い」の開催
(平成4年9月6日)
- 4、野幌森林公園月例観察会協力参加
(平成4年11月12日、12月10日、)
(平成5年1月14日、2月12日、)
- 5、野幌森林公園観察会の開催
(平成5年6月 日)
- 6、会報「エゾマツ」の発行 (年4回)
- 7、役員会の開催
- 8、会員研修会の開催 (平成5年7月 日)
- 9、その他事業関連協力及び参加
 - イ、北海道ボランティア・レンジャー育成研修会の後援
 - ロ、北海道ボランティア・レンジャー実践ゼミの参加
 - ハ、各機関が行う「自然に親しむ集い」の協力参加
 - ニ、関係機関との懇話会の開催

平成4年度 予 算 案

収入の部

項 目	予 算 額	内 訳	備 考
会 費	375,000	3,000円×125名	
繰越金	136,466		
雑収入	0		
合 計	511,466		

支出の部

項 目	予 算 額	内 訳	備 考
会議費	130,000	総会80,000, 役員会50,000	
通信費	200,000	会報発送, 切手類	
研修費	60,000	講師謝礼, 観察会	
印刷費	60,000	会報印刷, コピー代	
事務費	40,000	事務用品	
予備費	21,466		
合 計	511,466		

議案 6

会則の一部改正（案）

先般のオーツク支部結成など、また今後当然活動の活発化に伴い、支部結成の気運の高まりもある現在、組織、事業執行及び会計に関する項を、一部改正する必要がある。

改正案

第 2 章 組 織

（会員）

第 5 条の末項に 地方支部を組織することができる。 と加える。

（会計）

第 1 6 条に 3 項として

3、地方支部会員の活動費等については、予算の範囲内で助成を行う。

附 則

平成 4 年 8 月 8 日一部改正。 と追記する。

平成 年 月 日

殿

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会長 大友 健

地方幹事承諾のお願い

雨が多く、温度差の激しい日が続く今日この頃です。

大雪山系では、初冠雪が例年より10日も早くあったと、テレビのニュースで報じられていました。皆様には、公私にわたり御活躍のことと思います。

北海道ボランティア・レンジャー協議会も早いもので、第7回の総会が過日開催されました。

ボランティア・レンジャー育成研修会も13回を数え、約500名になっております。

協議会では、各地域ごとの支部活動についても一層の活躍ができるようにと、地方の体制強化にも力を入れていく計画をしております。

貴殿につきましては、役員会で地方幹事をお願いしていただくようにとの推薦がありました。

お願いの主旨は、地方会員の活躍やニュース等を協議会に流していただき、地方との交流を計り、協議会の質的向上や体制の強化をしていきたいと思っております。

上記のことをご理解いただき、是非とも貴殿の力添えをお願い致します。

以上

北海道ボランティア・レンジャー協議会
役員名簿 (第7回～第8回)

会長	大友 健	621-6054
副会長 (総務部担当)	八戸 克美	384-1950
	(協議会事務所)	
副会長 (研修部・広報部担当)	佐々木 幸夫	875-6602
幹事		
総務部	木村 万治郎	741-3565
	吉野 明彦	0133-74-0408
	田口 潤朗	378-0395
	佐藤 健一	592-4222
	中川 親善	871-4563
	目黒 孝	772-6405
	香島 由美子	865-8928

研修部	山口 慶彦	0126-25-0474
	西尾 貞敏	663-1048
	田中 利男	761-3065
	小林 英世	0123-36-3944
	五十嵐 一夫	01332-3-0604
	成田 伸一	682-3790

広報部	瀧谷 尚弘	572-9717
	小淵 修子	893-6309
	森田 敏光	513-9575
	田村 允都	791-0127

監査員	川端 功治	662-5548
	松野 誠也	822-5760

060 札幌市中央区宮の森2条13丁目9-13

069 江別市野幌若葉町25-27

003 札幌市白石区川下5条2丁目4-32

065 札幌市東区北21条東6丁目

061-32 石狩郡石狩町花川北2条6丁目

069-02 空知郡南幌町15線西9 HKハイムB205

061-22 札幌市南区藤野4条7丁目277-74

003 札幌市白石区北郷1条6丁目3-8

060 札幌市北区糠路1条8丁目6-17

003 札幌市白石区本郷通13丁目南2-24

068 岩見沢市1条西4丁目5

063 札幌市西区宮の沢1条5丁目6-45

001 札幌市北区新琴似6条4丁目3-13

064-13 恵庭市恵み野東5丁目3-1

061-02 石狩郡当別町字材木沢793-1

006 札幌市手稲区曙10条1丁目7-3

005 札幌市南区北ノ沢1897番地71

004 札幌市厚別区厚別中央2条4丁目15

064 札幌市中央区南7条西23丁目2-10

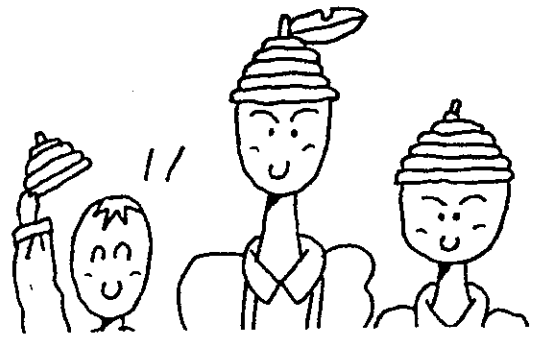
065 札幌市東区東苗穂11条2丁目897-2

063 札幌市西区西野8条9丁目5-1

005 札幌市南区澄川4条4丁目11-9

○ 研修部から・・・ ○

これからの自然観察会等の予定
北海道野幌森林公園事務所 主催
(四季の森林観察会)



8秋の森林観察会 平成4年10月18日(日) 9:30~14:30
大沢口から桂コースを通り、大沢園地を過ぎ大沢コースの
途中で休憩、エゾユズリハコースを経て大沢口に戻ります。

秋の森林観察会の下見を平成4年10月17日(土)午後1時から行いますので、
都合のつくレンジャーは是非参加、協力をお願いします。(大沢口集合)
また、北海道野幌森林公園事務所が観察会の資料を作るため、平成4年10月12日
(月)午前10時から下見を行いますので都合のつくレンジャーは是非参加ください。

8冬の森林観察会 平成5年 3月 7日(日) 9:30~14:30

※(集合場所・コース等は開催1ヶ月前までに決定・お知らせします。)

(月例観察会)

- ・11月の観察会 平成4年11月12日(木) 10:00~12:00
- ・12月の観察会 平成4年12月10日(木) 10:00~12:00
- ・1月の観察会 平成5年 1月14日(木) 10:00~12:00
- ・2月の観察会 平成5年 2月12日(金) 10:00~12:00

※ 北海道開拓記念館前に集合し、開拓記念館周辺を散策します。

北海道ボランティア・レンジャー協議会 主催

〈環境月間行事 平成5年6月6日(日)、自然観察の集い 平成5年9月5日(日)〉

※(集合場所・コース等は開催1ヶ月前までに決定・お知らせします。)

さらに、その他ご意見、ご希望等がありましたら、研修部 山口まで連絡願います。

問い合わせ先
北海道野幌森林公園事務所(公園管理部公園利用課)
〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館内
電話 011-898-0455 (内線42)

次に、8月の会員研修の思い出話をしたいと思います。

平成4年8月8日(土)午後1時、北大植物園前集合ということで、会員研修及び総会が行われました。実際には開始時間が遅れたため、会員研修は植物園内を駆け回る格好になり、もっと時間をかけて十分に観察したいと思った会員もいたのでは、と思われます。植栽されたものや実験的に植えられたものがあるとはいえ、都会の真ん中に残された自然のひとつと言って差し支えないと思います。

灌木園～林間～樹木園～北方民族植物標本園～草本分科園～バラ園～自然林～高山植物園と一通り観察しましたが、少し振り返ってみましょう。

入り口すぐの所にイチョウの雄木を見ましたか。枝が横になるのが雄木で、上に立つのが雌木という典型的な形をしていました。その左奥にチョウセンゴヨウがありました。

林の下にはオオウバユリ、ランの仲間などの草本がいろいろありました。

種々の灌木類を見てから樹木園へ行く途中に植栽されたムラサキセイヨウブナとブナを見つけました。その近くにヒッコリーやアラハダヒッコリー、カシクミがあったのを覚えているでしょうか。幽庭湖にはミズバショウの大きな葉が残っていました。

北方民族植物標本園と草本分科園には、道内各地で見られる植物があり、観察会でお馴染みの植物にきっと出会ったことでしょう。入り口のアーチには蔓草が絡まっていた。

さて、バラ園では園芸種とはいえ、目を留められた会員も多かったのではないのでしょうか。

サトウカエデが道路沿いに植栽されていたのに気づきましたか。ひょろっとした紫の花が目に入ったことと思います。葉が段々になっていますので九蓋(階)草といひます。

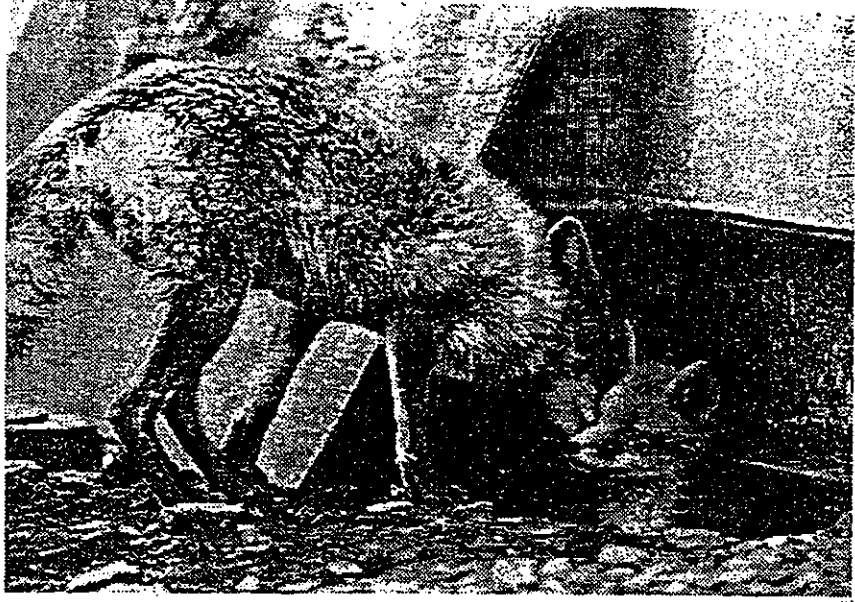
自然林ではカツラやアサダ、ドロノキ、ハリギリ、アオダモ、それからハルニレの大木がありました。ちょっと離れてグイマツもありました。

高山植物園(ロックガーデン)では、ヤマツツジやキンロバイ、オトギリソウがちょうど花の時期でした。ホツツジの白くて小さな花も見られました。温室のそばの流れを悠然と泳ぐニジマスを見て、食指が動く会員もいたと思います。

耳に標識を付けたキタキツネに出会いましたか。かなり人に慣れてるようです。

木の下に丸めて無造作に置かれた、張り替えの済んだ芝の土の中からヤブカラシが蔓を伸ばしていました。最後は針葉樹の林で、アンゲンストウヒ(ホアシー)やブータンマツが植栽されていました。大半が外国から移入・植栽されたもので、北米のヌマスギや中国のシロマツ、オウシュウクロマツ、リギダマツ、ボンデローザマツ、セイヨウイチイ等がありました。もっとよく観察し、記録しようと思ったのですが、かでの2・7での総会の時間が迫ってきましたので、そろそろ植物園を出なければなりません。

また次の機会にと、後ろ髪を引かれる思いで、植物園を後にしました。



母キツネが戻ってきて、巢穴から餌を出した子キツネ
 札幌市中央区の北大植物園で

野生キツネ 都会派2世

北大植物園 4匹 すすく

札幌市の真ん中にある北海道大学付属植物園で、野生のキツネ夫婦と四匹の赤ちゃんが誕生した。観光客でにぎわう日中は巣穴に潜み、閉園後顔を出してもちゅちゅおぼろをみせている。

北大植物園は、札幌駅から南西に徒歩十分。道庁もすぐそばにある。十四万平方メートルの広大な敷地には豊かな自然が残り、約五千種の植物が茂る。年間十五万人ほどの観光客や市民を楽しませている。

植物園職員が、この冬、キツネ夫婦を確認し、繁殖の可能性もあともみていた。

キツネの家族は、植物園中央の売店近くに穴を掘って子育てに懸命だ。赤ちゃんは二月ごろ生まれたとみられ、母キツネは授乳に忙しい。子キツネはまだ丸顔と指摘する。

で、目付きがいかにあやうくない。母親が戻ると巣穴から飛び出してジャリジャリ、興奮をふくむ。

母キツネは、巣穴のすぐ上の枝に止まってキツネを狙うハシブトガラスや人の気配にいらたち、子を守るうと攻撃的になっている。

キツネの研究家で、網走支庁小清水町の獣医竹田澤美さんは「今は都会の方が残飯も多く、エサ事情が良い。都会で育ったキツネは環境に適応していく」と指摘する。植物園の高橋英樹助教授は、孤立した緑地と思っていた植物園でのキツネの誕生に驚きながらも「ヨーロッパには回廊のような緑のつながりを持つ都市があって、どこでは野生生物もある程度は移動できる」と話す。北大植物園は最も近い西側の山止の森までも約二キロ。知事公館や大通公園の緑が飛び飛びにあるだけだ。キツネ夫婦の親は、子キツネが大きくなら七月下旬には、全力で子に攻撃を加えて追い払う「子別れ」をする。植物園は親の縄張りを分けていっばいで、子が住みかをはき。植物園の職員は「都会の植物園のみになった気がするが、四匹の子キツネは大人になっただろうと思うのだ」と、都立派キツネの自立後にキツネしている。

北海道ボランティア・レンジャー

協 議 会 協 会 則

第 1 章 総 則

(名 称)

第 1 条 この会は、北海道ボランティア・レンジャー協議会（以下「会」という）と称する。

(目 的)

第 2 条 この会は、会員の自然観察及び自然保護に関する意識の高揚を図り、自然解説等を通して自然保護思想の普及啓発に務め、関係機関と協力のもとに将来にわたって北海道の自然環境の保全に寄与するとともに、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする。

(事 業)

第 3 条 この会は、次ぎの事業を実施する。

- (1) 自然保護に関する関係機関との連絡提携を図る。
- (2) 関係機関との連携及び会員相互の情報交換を図るため、会報を発行する。
- (3) 会員相互の資質の向上を図るため、研修会等を開催する。
- (4) その他、目的達成に必要な事業を実施する。

◇◆◇◆◇ 広 報 部 か ら …… ◇◇◆◇◆◇

さて、第7回定期総会において、平成4事業年度の会報「エゾマツ」の発行については、年4回と承認されました。(23号～26号)

ご存じのとおり会報は、自然保護思想の研鑽のため、並びに会員相互の情報交換や親睦を図る場として会員の皆様に参加・活用する目的で発行されています。

事業年度内の予定は次のとおりですので、皆様の積極的な参加をお願いいたします。

号 数	24号	25号	26号
関 係 月	10, 11, 12	1, 2, 3	4, 5, 6
原稿締切日	12月15日	3月15日	6月15日
発行予定月	1 月	4 月	7 月

なお、原稿につきましては、手書きでもかまいませんが、ワープロやパソコンをお持ちの方は、できるだけ原稿を印刷して送付願います。

また、表紙を含めまして、挿絵(カット)も歓迎しますので、皆様、ご多忙とは存じますが、ご協力方よろしく願います。

原稿送付先 〒005 札幌市南区北ノ沢1897-71 菰谷 尚弘

北の森林

お、おれは好きだ、北の森林が。
午前、職場の明るい壁の反射の中で、
夜半、体臭でむれる酒場で、ふっと
孤独で、

森林よ、また思い出す、きみのこと。

幾度迷いかけたっけ南の国の森林の
強烈なパンチだつて悪かない。

瞬時に暗く天地をとじこめ
轟然と落下してくるスコールや、

千本の腕をうち振り哄笑しながら
飛翔するシバ神、颯風のねぐらに
南方の森林は

まばゆい陽光をたらふく食って
はしいままに生い茂り、

密生する下生えの膨張に

木々はおしのけあい、ふみつけあい、
お互の背にのしあがり

猛然と、不遜に天に伸びる。

けれど、北の森林はちがうんだ。
見かけはどんなに密生しようと、
みわけられるんだ、一本一本の木が
はつきりと。

乏しい日光を分けあって
めいめいが必死に生きて枝をつなぎ
互を守りあっている。

かれらがおれたちに見せるのは、
木々は手をとりあって
美しい森林をつくること、

森があるから木々があるのじゃない、
一本一本の木が美しくあってこそ
美しい森林ができること。

お、おれは好きだ、北の森林が。

お、おれは好きだ、森林の思想が。

河邨 文一郎

日本現代詩人会会員



会報第21号でお知らせしましたが、北海道（保健環境部自然保護課）が開催します平成4年度ボランティア・レンジャー育成研修会は下記のとおり実施され、75名のボランティア・レンジャーが誕生いたしました。

記

第11回	芽室町新嵐山荘	6月11日 ～ 6月13日	24名
第12回	芦別市芦別温泉	7月23日 ～ 7月25日	20名
第13回	白老町ポロト湖	8月20日 ～ 8月22日	31名

20代から70代の新ボランティア・レンジャーの皆さんの活動については、私共も微力ながら支援、お手伝いいたしたく存じますので、よろしくお願いいたします。

皆さんの近隣に、きっとボランティア・レンジャーの仲間がいることと思いますので声をかけ合い、自然観察会などにも是非、積極的に参加されますようお願いいたします。

ここで当号の投稿者を紹介します。

帯広市東1条南26丁目	高橋義久さん	(第11回受講者)
札幌市豊平区平岸4条7丁目2-8	今野義也さん	(第12回受講者)
札幌市中央区南24条西12丁目2-21	佐藤善也さん	(第13回受講者)
札幌市南区藤野4条2丁目371-20	小林文男さん	(第13回受講者)
釧路市武佐3丁目1-22	石川 洋さん	
帯広市西20条南3丁目32-4	小澤敬二さん	
札幌市白石区本郷通13丁目南2-24	香島由美子さん	
札幌市厚別区厚別中央4条4丁目	樋口達郎さん	(第12回受講者)

なお、紙面の都合等により今回紹介できなかった方々は、次回には必ず掲載しますのでそれまでお待ちください。

普段から心に思っていることや主張を是非、この場で吐露し、考えてみませんか？誰かが何かを自分にしてくれるのを待つのではなく、自分が誰かに何かをしてあげることができないかを・・・ボランティア・レンジャーとして・・・。

研修会に参加して活眼を開き、視野を広げる

帯広市 高橋 義久

歳月の流れは早い。春爛漫の季節でしたので樹木の新緑は陽光を求め活発に躍動し、小さな草花は種の繁栄に賭けて可憐な色取り取りの花を開き懸命に生きていた。

早いもので3ヶ月の日時が経過いたし落葉と紅葉、結実の季節を迎えました。以来私にも少なからぬ意識の変革が現れました。それは新なる未知への挑戦と受講を契機に特段と己れの知識不足を痛感し図鑑、参考資料を開き目を向ける今日この頃です。





人間の脳細胞は140億程度で、男性は20才、女性は18才でピークに達し40才を過ぎた頃より1日10万、アルコールを嗜む人はその倍20万個が減少する運命にあるそうです。早速試算の結果私の場合約15億、減少率10%強（年令が暴露しました）脳細胞の機能には疑問が残るが、今だ90%残っている。機能低下を最少限に留め維持させるのは、己れが努力の外は道が無いと悟り、漫然と過ごした過去を反省し、改めて視点を新たに活眼を開くと、そこには無限の広がりが存在することを知り活動を開始した次第です。



私事にて恐縮ですが、30数年間動物、特に産業動物として飼育されている、大中家畜の牛、馬、羊、豚等の診療・衛生・改良増殖…特種部門の職業で、動物全般を論ずるのには知識が極めて浅いことを痛感している昨今である。

知らないより、動かないよりはとの単純な発想から両面に渡る活動を開始してから3年目の秋を迎えた。遅々とし進まぬ学習成果と技術向上に悩みつつ一步一步積重ね以外の道は無いと悟り、晴耕雨読に務めている。

 各種研修会・講習会・講座と、 趣味・スポーツを通じて



- 1、 帯広百年記念館～ボランティア養成講座、その活動から学ぶ
ボランティア・レンジャー育成研修会

帯広百年記念館常設展示解説をメインとする講座として、博物館概論、動・植物、農業気象、地学、考古学等ついて十勝地方を基礎として学ぶ機会を得た。

その後も各種講座、講演会、研究発表会、体験教室等々に務めて参加致し知識の修得に努力している。学んだ事により、より一層自分の浅学を認識致し苦悩の中、学習の日々にある。心許無い説明の最中鋭い質問に出会う、触れ合いの中から学ばされる事の何と多い事実に遭遇する。その現実がより一段と自分の身に成る事実を体験し得た。

事例の縦線は当然であるが、横線については無限に奥が広い実状も理解し得たことは大きな収穫であつた。際限なき探求の道程とも理解し得て、尽きることのない学習の路でもあろう。

此の問題は後段の研修会に於ても同様である。基礎的知識以外に住民参加を伴うだけに、理解と知ることの前提として、楽しく、自然に、無理なく、気楽に、の中から進展する為には、より以上の方法と技術が期待されるからである。



2、園芸講座、園芸友の会、家庭菜園から学び、教えられる

バラ、菊 … 草・木花の肥倍、庭園・庭木の管理・整枝・剪定、花壇、盆栽等の基礎的事項を学びその後継続して実技を中心とした庭木の剪定、鉢植え盆栽・植え替え、針金掛け等技能修得の最中にある。

季節的に菜園管理の時期である、幼木の果樹を初め一般的野菜も多品種栽培している、減農薬に務め、人海戦術で草取りに励む。簡易舗装道路の縁には踏み躪られても絶えることなく生命力の強いエソタンポポを圧倒して増殖しているセイヨウタンポポ、切り取つても降雨後すぐ芽を出すカタバミ、カキネガラシ、栽培しているイチゴの葉蔭から顔を出してくるミミナグサ、ウシハコベ … 数多くの雑草が繁茂している。

原始的植物、動物の出現は5億年前頃と推定されている、想像を絶する長い進化の過中にあり環境への神秘的適応に驚愕を感じている昨今です。樹木、草花は元より野菜類にあつてもその特性等をより深く周知することが、より一層目的に適う肥倍・管理が可能であると理解し得た次第ですがこれも直接植物の維持、管理等諸々の実技・経験により相手から学び、教えられている。

3、スポーツ、趣味 ～ 風景から学ぶ



(1) ゴルフ、パークゴルフ、クロスカントリースキー

山裾から、林道から、フェアウエーを歩きながら、グリーン上から、大雪・日高山脈の峰々を望み、代古の造山運動に思いを巡し、褐色の岩壁に噴火と形成を偲び、冬山の白雪・吹雪の壮観から氷河時代に生きた、マンモスゾウ、ナキウサギ、山麓に映る常緑針葉樹エゾマツ、トドマツ、アカエゾマツ等自然景観の壮大と、神秘に感、新たなるものがある。自然の節理ではあるが、春から秋に掛けての樹木、草花等の芽ふき、開花、紅葉、結実等色彩の変化と成育過程の変化、そして旅立つ種実、落葉の風景から季節感と自然の摂理を痛感させられる。

ハルニレ、カツラ、カシワ、ミズナラ、エゾイタヤ、ヤチダモ、ヒバ、カラマツ、数多いヤナギ科等々が繁茂し少しく横道に逸れると低木・灌木のイワガラミ、ノリウツギ、ウラボシ、ツルウメモドキ等が、その下には多種類の草花が繁茂している。

(2) 魚釣り ～ 沿岸の湿原、湖沼にて

快晴時に眺める朝日の光景は壮観である。紺碧の海、打寄せる荒波は本能的に心を和めさせてくれる。

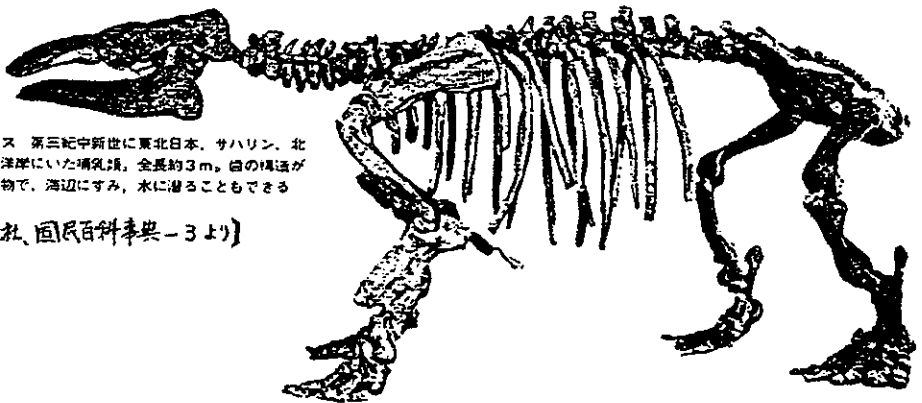
海岸の砂浜・岩場の上に立ち、湿原、湖沼とその周辺を見渡せば、そこには計り知れない自然の営みを観察することが出来る。十勝の太平洋海岸には大小さまざまな湖沼が散在し干潟も多く砂州には原生花園が一面に広がりハマナス、ガンコウラン、クサフジ、赤色のシャジクソウ、青色のエゾマツムシソウ … 野生植物群落がある。

海辺の鳥カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ…渡り鳥のガン類…タンチョウの優雅な編隊飛行を見受けた時は視界から消え失せても暫し茫然としていた。

今立っている砂浜は、古十勝湾の時代(第四紀)(約170～100万年前)には背後の十勝平野の内陸奥深くイワシクジラ、ホオジロザメ等が泳いでいた。

更に時代を遡り(約2800万年～2500万年前)(地質年代-新生代・古代三紀・漸新世後期)哺乳類(綱)の絶滅した目で^{モスチルス} ^{モスチルス} 東柱目ともいい、祖先は、ゾウやカイギュウの祖先と近縁であると考えられている^{デスモスチルス}、鯨の祖先(原鯨類)の化石が昭和51年以降十勝の足寄動物化石群とし発見・発掘されるに及びこれを証明されるに至った。人類期と称される第四期の初頭より2000数百万年前の時代である。

取纏まりのない私的現況報告となりました。学ぶことを悟り参考資料片手に遅々進まぬ日々を過ごしています。焦点を絞り整理すべき事も理解しつつ浅く広くと、耐久性だけが取り柄の自分を頼りとして頑張っている。



デスモスチルス 第三紀中新世に東北日本、サハリン、北アメリカ太平洋岸にいた哺乳類。全長約3m。骨の構造が特異な草食動物で、海辺にすみ、水に潜ることもできる

〔株〕平凡社、国民百科事典-3より〕

札幌市 今野 義也

はじめまして。私は7月に実施された第12回ボランティア・レンジャー育成研修会（芦別市）を修了しました。その後協議会の方にも入会させていただき、今回9月6日（日）に行なわれた「野幌自然観察のつどい」に初めて参加しました。初めは、先輩方がどのように指導しているのかを見習おうと一般参加者という形で参加しようと思っていたのですが、研修会修了生ということがばれてしまい、ボランティア・レンジャーとして活動することになってしまいました。名札・腕章を付け先輩から参加者に紹介されたときは、「これは大変なことになってしまった」と思いました。実は、私は植物の事はさっぱり分からないのです。「何か聞かれたらどうしよう」とそればかり思っていました。幸いにも（？）なにも聞かれなくてすみましたが……。私が今回したことは、鉛筆を貸してあげたこと、どんな花が咲くか図鑑を見せたこと、説明されている植物を手で示したことこの3つだけです。先輩方は色んなことを知っていて、解説をスムーズに行ない質問にてきばきと答えていました。ただただ感心するばかりでした。その様子を見て、先輩方の築き上げた伝統を汚すことのないよう勉強して少しでもお役に立てるようになりたいと思いました。そのためには、なるべく観察会に参加したいと思しますので先輩方のご指導よろしく願います。

ボランティアレンジャーに参加して

佐藤善也

まず、協議会入会の新参加者をよろしくお願い申し上げます。

この度、広報部より会報への投稿の依頼がありましたので、標記についての感想を以下に述べさせていただきます。

まず第一に自然保護の重要性その活動の基本的な手法について体験したことは私にとって大きな勉強と収穫となりました。そもそも自然保護の重要性は私なりに理念的につきの二点より認識をしていました。一つは労働時間短縮による欧米並の余暇の増加による、国民の余暇活用に占める自然との共生活動の重要性であります。

第二にはそのための自然活動のための開発活動の一部が自然破壊をもたらしている現状にたいする歯止めであります。前者に対しての一例は労働の再生産や、国民的身体、精神の両面での生活の充実の向上があります。後者には、開発の美名に隠れた環境破壊で、このための種々の保護対策とその実践が必要であります。

今回の講習は以上の理念を実践化するための基本的な知識や実技を初心者に分かり易く学習させて戴き本当に感謝いたしております主催者の計画や運営に対する細かい心遣いにお礼を申し上げますと共にこの種の講習会（さらにはアドバンスコースを含めての）を続々と推進され、道民的規模での自然保護思想の啓蒙に寄与されるよう熱望いたします。

最後に、この講習を期にわたしたち受講生がこの啓蒙活動に参加（又はアシスタントとして）してこの面での微力ではありますが、貢献したい所存を表明し、受講の感想の一旦といたしまして終わります。



もり 森林よ！ダイヨガ、ダイヨガ

オハン、スッチャガ

札幌市 小林 文 男

この度、第13回ボランティア・レンジャー育成研修を受講することができましたことを、開催機関と関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

私この前九州旅行したときバスガイドさんが、「ダイヨガ、ダイヨガ、オハン、スッチャガ」これは、誰よりも誰よりもお前が好きだぜと言うことだと教えてくれました。私も惚れ性が強く、明けても暮れても森林（もり）よ自然よオハン、スッチャガで送る毎日です。

1. ボラレンに惚れて

まる40年勤めた国有林野事業を本年4月退職し、ある会社に勤務しましたが勤務しながらこの研修を受講することは難しいことが分りましたので、こちらを選択し締切ぎりぎりに駆け込みセーフ、会社よりこちらに惚れた。

2. 森林（もり）に惚れて

まだ小学校に入る前でしたが、森林官が山を巡視しているところを見て大きくなったら僕もなりたい、これが動機で林業学校から国有林へ、ここで植えて育てて、伐っての仕事であった。後半になって林業と自然との調和がどうか、天然林施業の推進がどうか言っているうちに気がついたらもう10年、林業用語でいうと老齢過熟木（老木のため成長が低下し、要伐採木）的な存在になっていたのでこれほど惚れた仕事もこれまでとした。

3. 自然とのふれあいに惚れて

国有林在職中、勤務機関が開催する各種イベントの森林インストラクターに駆りだされ、これも回数を積み重ね試行錯誤を繰返しているうちに参加者の方々と馴染が深くなり、堅さも徐々にとれてきました。

こんなことをしているうちに思いを同じくする者が寄り集まって、森林を愛し、森林と親しむ友の集い「森友会」と呼ぶグループが誕生し、会員が現在約200名弱になり各種イベントを実施している。

この会では、森林浴からやさしい山登り等を行なって、自然とのふれあいを楽しみながら自然への理解を深めて行こうという取組をしております。

イベントは主として札幌近郊の国有林を活用し、このほか札幌市民の森や散歩道も自然観察の場として会員に喜ばれております。

このような小さい会ではありますが、これからも皆様諸先輩の一層ご指導を頂きたいお願い申し上げます。

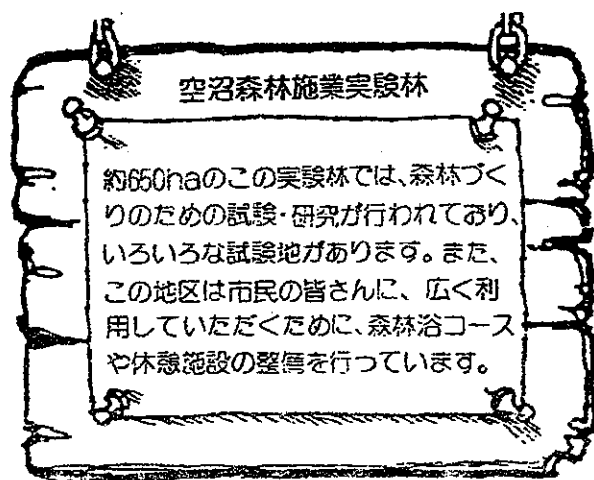
4. 自然観察への情報源

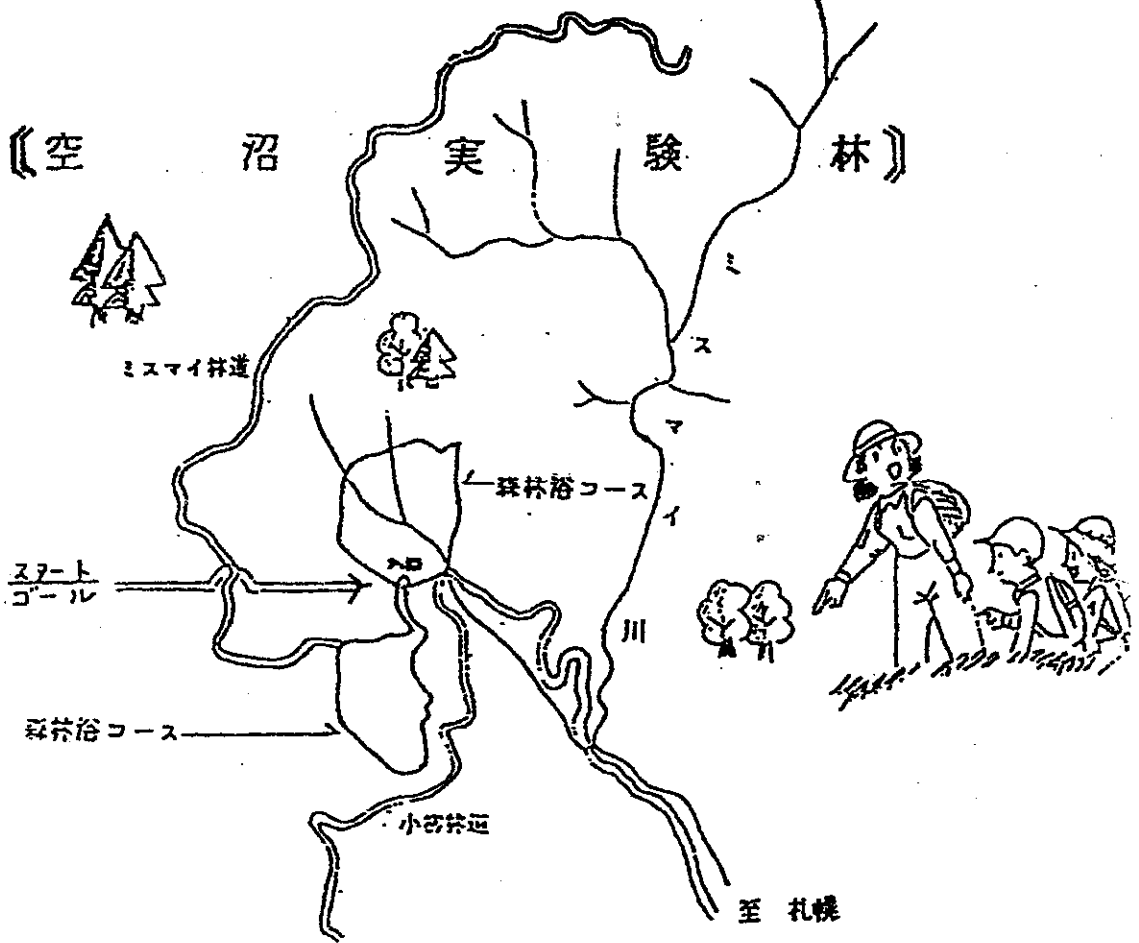
エゾマツ20号(4.1.14 発行)巻頭言の後段では、最近における森林機能への多様な要請とそれをうけての森林施業について、ボラレンとしてその理解を深めるためにも多種多様な森林に足を踏み入れ・・・とありました。

札幌近郊では野幌や藻岩山、少し遠いが道民の森等沢山考えられますが、もっと近い所にほんものの天然林施業を実施している実験林があります。

ここは札幌営林署管轄の国有林で、国道230号線の簾舞から簾舞川上流へ約6Km入ったところで650haの天然林施業を主体とした実験林があり、この中で昭和40年代から天然林施業の推進を図るため本格的な取り組みをしている、その後先人が造った高齢人工林の取扱の検討を含めた実験林として森林施業上貴重な役割を果たしている。資源倍増の森とか最近では学びの森とも呼び、堅苦しい感じですが林業専門的なコースや一般向きの森林浴歩道等が整備されておりますので、お気軽に散策されたいと思います。

なお、当実験林は北海道営林局札幌林業技術センター(南区定山溪849 ☎ 011-598-2273)が担当しています。





「協議会員として」

釧路市 石川 ひろし

過日、許可が必要な事もあって（何処から許可をもらえるのか？）仲々ゆけなかった釧路湿原・宮島岬へ「どさんこ」になった心算で2時間余歩き、雄大な光景を見る事ができました。

が、岬までは「どさんこ」どころか一般車も入れる道路で、而も宮島林道は途中まで舗装工事中。

夏休みの若者達が数台のバイクで飛ばして来たのにはビックリ！！

入域に許可が必要の国立公園釧路湿原内とは、全くどうなっているのでしょうか。

当地に転勤し10余年。4年程前から漸く時を持つことが出来、根釧の山野を歩き自然観察が唯一の楽しみにし大切にしたいと思っている私には、ラムサール国際会議開催区域と思われぬ事柄でした。

各関係先の認識と湿原保全のため強力な処置をお願いするものです。

社説



雄阿寒岳一合目付近を
尋ねてサンゴ。背後は
阿寒湖

条約で守れるか湿原の生き物

開拓の波にさらされる湿原の生き物たちを守る動きが、道内で活発になつてきている。

道庁釧路管区浜中町の霧多布湿原など三湿原をラムサール条約に登録せよと運動を始めた。来年六月、釧路市で開かれるラムサール条約の締約国会議をこらんとする運動だ。

先月、釧路市などで開かれた道主催の

うなれば、道内は国内屈指のうれしい湿原王国ともなりう。

その上で指摘したのは、ラムサール条約が湿原保護の万能薬ではないという当たり前のことである。ともすればラムサール条約幻想がひとり歩きしかねないのが気がかりなのだ。

そのことは、登録湿地、釧路湿原をふれながらすすむ。

湿原には国立公園の網がかぶせられてゐるが、その周辺は農地開発や宅地造成だげでなく、おびただしいゴルフ場造成などで虫食の状況だ。

タンチョウのねぐらが狭まり、もはや安房地ではなくなりつつある。

水質の汚濁も進む。湿原の主・イトウが幻の魚にならうとしている。

湿地登録だけでは安心してはいられないのだ。ある日ふと気づくと、湿原は枯れ地と化していった。なまこじり湿原のような現象は見えない。

それなら、いま何が必要なのか、それを考えるためにも、まず湿原の現状をしっかりと調査したい。環境省もラムサール条約の専門家も提言していた。

調査主体は環境庁、道だけでなく、現住民、自然保護団体を加えなければならぬ。開拓と保護の接点をいかに厚くかが問われる事態に備え、納得すべの対策を採る仕組みをつくっておきたい。

そこで初めて、具体的な保護対策を調査担当を行政、民間の合同で検討する段階となる。法も条例などの規制があった方がよいというなら、その整備もしていかなければならないだろう。

国内の規制の枠を越え、環境庁にはさだめて「ラムサール条約の登録に伴って国立公園化、鳥獣保護区の設定などの作業も出ている。関係他省庁などとの折衝には相当の決意をもって臨んでもらいたい。

これまでこの例をみると、横断ししか思えないような「管庄」に屈し、保護すべき地域をこく控えぬ指定しかなかったかのようだ。

自然・鳥獣保護団体は、道のいう三湿原ではまだ足りないと言っている。自然は一層損なわれると、元に戻らない、とくに湿原はそうか。

みんなぞ知恵を絞って、北海道方式の湿原保護策を編み出したい。

十勝からの便り

帯広市 小澤 敬二

今年のボランティア・レンジャー育成研修会が、芽室町新嵐山で開催されることを知ったとき、私はたいへん嬉しく思いました。そして、懇親会には1升下げて参上しようと考えました。なにしろ、十勝管内でこのような種類の研修会や講習会が催されるのは初めてのことであり、私自身が会場の近くに3年間住んで、そこは自然探索に歩き回った所だからです。お祝いと激励と、新嵐山のPRのためなら、3升到してもいいなと思って密かに楽しみにしていました。

ところが、稚内での日本野鳥の会の北海道ブロックの会議に参加することになってしまったのです。日本野鳥の会の評議員や、十勝支部の幹事を仰せつかっている立場を優先させなければならなかったのです。じつは稚内へ行くことにも魅力がありました。稚内は30余年ぶりのことであり、どうしてもサロベツ野原と宗谷丘陵の大自然を思い出してしまうのです。

稚内の夜はハッカクを賞味し、メグマ沼でツメナガセキレイやコモチカナヘビを観た嬉しさで、新嵐山への3升のことはすっかり忘れてしまいました。新嵐山の懇親会で、十勝と新嵐山について紹介したいと思っていた内容は次の2点でした。

1. 十勝の河岸段丘の斜面の樹林地は、開拓当時から薪炭や山菜を採り、牛馬を放牧したり、生活用水をそこに求めてきました。段丘斜面の樹林地は、河畔林や防風林、街路樹と接続して十勝平野を網の目のように覆っていました。ところが、酪農の振興で段丘斜面は整地されて牧草地となり、護岸工事で河畔林は伐採され、大型農業機械の普及で防風林も伐採されて、緑の網目は分断されつつあるのです。

2. 新嵐山は昔から私の好きな所でしたが、スキー場やゴルフ場として変貌し、残された自然は貴重な存在となりました。美生川右岸の小さな丸山は、植物の学術上の道の保護地域に指定されています。美生川でシノリガモが繁殖し、残された老木でフクロウが観察され、時にはクマゲラも飛来します。特に面白いのは、美生川の隆起する新嵐山と丸山を分断した地形で、日高山脈と十勝平野の形成の歴史を伺うことができるのです。

十勝を訪れる人に、十勝の自然について話しておきたいことは沢山あります。自然に関心を持つ仲間と共に語る機会を逸したことは残念です。あの3升は、十勝にボランティア・レンジャーの会が組織されるまでお預けとさせていただきますことにします。

今、十勝では

道路再開問題
高原視
土幌工事

日本自然保護協と道協会

環境庁に中止要請へ

【帯広】十勝管内土幌町と鹿追町を結ぶ十幌高原道路(道道十幌然別湖線)の工事再開問題で、道自然保護協会(小狩博雄会長)は日本自然保護協会(本部・東京、沼田真会長)と連名で「工事をしないよう道を

指導してほしい」と、近く環境庁長官に要請書を提出する。

要請書は①予定ルートには希少野生生物のナキウサギが住むほか、コマクサの自生地があり、一部をトンネルに設計変更しても、環

境への影響は避けられない
②土幌町から然別湖へは現在も車で行くことができ、自然環境を損なうまで距離を短くする必然性はないなど指摘している。

大宮縦貫道路計画が撤回された際に、環境庁自然環境保全審議会の林修三自然公園部会長(当時)が出した「大雪山国立公園は、わが国に残されている極めて限られた原始的自然のひとつで、これを保護保存することとは非常に重要」との談話に反するとしている。

境への影響は避けられない
②土幌町から然別湖へは現在も車で行くことができ、自然環境を損なうまで距離を短くする必然性はないなど指摘している。

道協会が日本協会と連名で工事再開反対を環境庁に要請するのは昭和六十三年に次いで二回目。道自然保護協会の依西三副会長は「自然保護の意識は二十年前より高まっているのに、効果や目的が不明確のまま工事を再開するのは理解できない」と話している。

一方、地元十勝自然保護協会(野洲健治会長)は七日夜、帯広市内で理事会を開き、道が今月中にも予定している十幌高原道路の未開削区間の地形測量、地質調査に対し、反対する方針を固めた。近く総会を開いて正式に決める。



工事再開へ動く道の姿勢に自然保護団体の反対が強まる土幌高原道路

ブナ林について・・・ホシガラスやミヤマカケスがはるばる津軽海峡を越えて種を運んできたのでしょうか。ブナの自生林として、黒松内以北には分布していない92haもの純生林（温帯林）が残されていることから、学術的に貴重とされ、昭和3年10月22日に天然記念物に指定されました。



しかし、どこでも直面する問題ですが、町村合併に絡む財源として伐採の危機に遭遇したところ昭和29年8月14日、地元住民らの陳情により、守られた経緯を知りました。

現在では、純生林と申しましてもミズナラやエゾイタヤ、シナノキが混じり、ブナの樹を採るのは葉が上の方で繁っていることもあり難しいかもしれません。

でも、つるりと滑らかな木肌に特徴がよく現れていました。そして、黄色や暗灰色の苔（地衣類）が斑紋をつくり、この模様から川を上る蛙を、ブナ蛙と呼ぶことを知りました。

ブナは、木材としては水分が多いため腐りやすいうえ、狂いが生じやすく、ニシン釜の薪として使われるだけだったそうです。それが、乾燥技術の進歩によりブナフローリングや高級家具として大変身し、一躍脚光を浴びるようになりました。

そこに、この町の精神や地元の人々の意気込みを感じとりました。

来年の5月には、ブナセンターが開設され、木工作業が楽しめるようになるそうです。そういえば、「歌才自然の家」そのものが山小屋風の造りで、親しみを覚えました。

7月末からはホタルも見られるそうですから、自然を満喫でき、レンジャーの人達も活躍できる場となるに違いありません。

町長の話では、ここは「福祉と酪農の町」なので、ゴルフ場は造らないそうです。ですから子供たちや家族連れが集まる、自然学習にふさわしい場所と言えそうです。

地下鉄のポスターで御覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、町のお祭り、「ビーフ天国」には私もこれまで二度ほど参加したことがあります。そして、今回の実践セミナーと何か この町とご縁があるように感じました。

黒松内断層について・・・言葉のうえでは聞いていましたが、現地を見せていただき、海底が隆起したことがわかりました。（赤松先生の説明から）その証拠に川岸の砂の層から貝の化石が見つかりました。

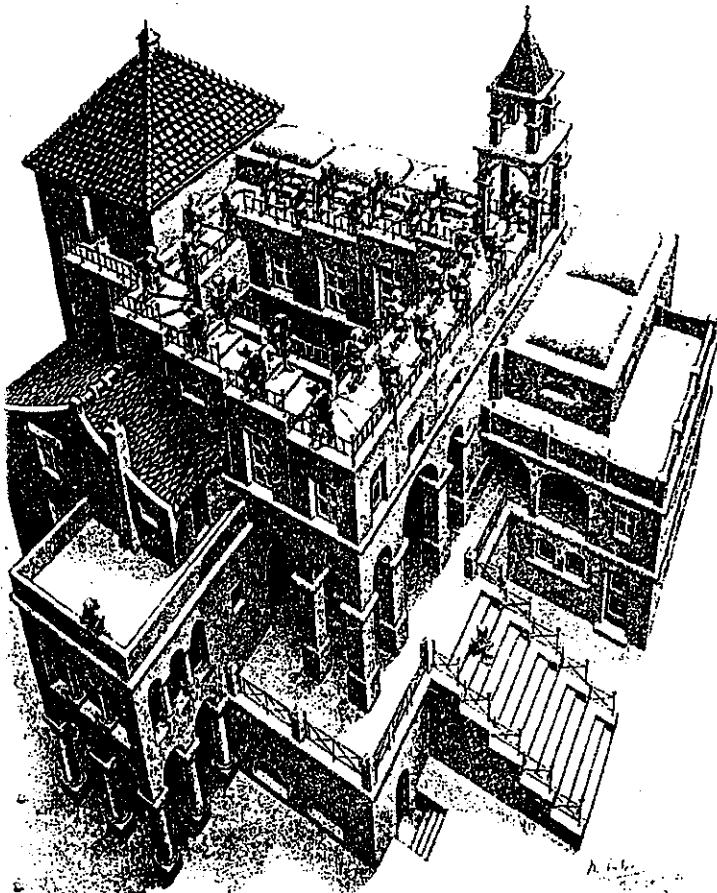
実践セミナーから・・・2日めは小川先生から、企画・立案の仕方をグループ4人で話し合う形で学びました。このセミナーを通して、新鮮な感動を得、自然に親しむ事の大切さについて、改めて認識しました。

「わが森」野幌森林公園

—花たちのハミングに魅せられて—

樋口達郎

オランダの巨匠エッシャーは、特異な遠近法、水平と垂直、2次元と3次元など独特な手法を用いて、観る者を“あり得ない現実”と“錯覚”の世界に引き込む。「上昇と下降」「画廊」や「凹凸」などが代表作だ。



上昇と下降 エッシャー (オランダ 1898~1972)
1960年 35.5×28.5cm (リトグラフ)

いつも見慣れている世界地図の中の日本の位置はやや中央である。だが、世界各国の自国で使われている地図では、やはり自国の位置が中心である。その場合、日本の位置は申し訳程度に隅に置かれている。

ものの観方を視点を変えることによって、固定概念が左右され、常識も非常識となってしまう。

野幌森林公園には、居も近いということもあって、今までは年に1~2度は足を運んでスケッチブックを汚している。その時の森を観る目は、木々の枝の張り具合や園路のうねりなど視覚からの構図が主になってしまう。

今年の春、野幌森林公園で催された観察会にはじめて参加した。これは、あるベテランのボラレンの誘いに気軽に乗ってしまったからである。

その日は二百名近い参加者があり、ボラレンの的確な解説に誰もが目を輝かせながら耳を傾け、生きている森の姿に感動していた。

萌える樹々の緑、花たちのハミング、清冽な森の^{せいりつ}大気、鳥たちの語らい、路端での小さな草花の命の営み。どれもが生命が宿り、一体となって光り輝いている。

それまで「構図」として見ていた自然も、視点を変えることで概念が一変してしまう。貴重な観察会での体験になった。

勤め先では「オレの将来知れたもの」程度に先が見え始め、一方、家庭でも最近とみに「粗大ごみ扱い」が顕著になり、自分の身の置き所に苦慮していた矢先の価値観の変化だ。

それ以来、観察会にはできるだけ参加するようにしている。もちろん、休日には野幌の「わが森」の散策を欠かさない。7月末に行われた12回目の研修会にも参加し、458番目の修了証書を手にするほどの傾斜ぶりに我ながらおののいている。これからは、先輩諸兄の豊富な知識を、時間をかけてジックリ吸収するつもりだ。

今までは、知らず知らずのうちに“世間さま”に迷惑を掛けて生きてきた。(特にススキノなどでは) これからは、その分をボランティアをとおして、いくらかでも“罪滅ぼし”になるよう努めるつもりでいる。

エゾマツは、北海道の代表的な針葉樹の一つで1966年(昭和41年)に「北海道の木」に決められました。

北海道のほか、サハリン、南千島、中国東北部などに分布する亜寒帯性の樹木です。

札幌近郊では、手稲山の標高700mくらいの所の斜面や定山溪付近で、大樹のたくましい姿が見られます。

この厳しい自然の寒さの中を耐え抜くエゾマツのように、わが北海道ボランティア・レンジャー協議会も成長し続けたいものです。(表紙の言葉)

—編集後記—

これまでの経緯をよく知らない新役員による初めての会報ですので、至らない点が多々あることと存じます。

本号は、総会及び役員改選の結果をお伝えし各部からのお知らせとお願い並びに新会員の声を中心に編集しました。

不慣れなことは理由になりませんので、是非皆様の批判及びご協力を賜り、会の目的により一層近づき会報にしていきたいと思ひます。

(新広報部)

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報「エゾマツ」第23号 1992.10.10
発行責任者 大友 健

(表紙題字は、岡田 元北海道生活環境部長)